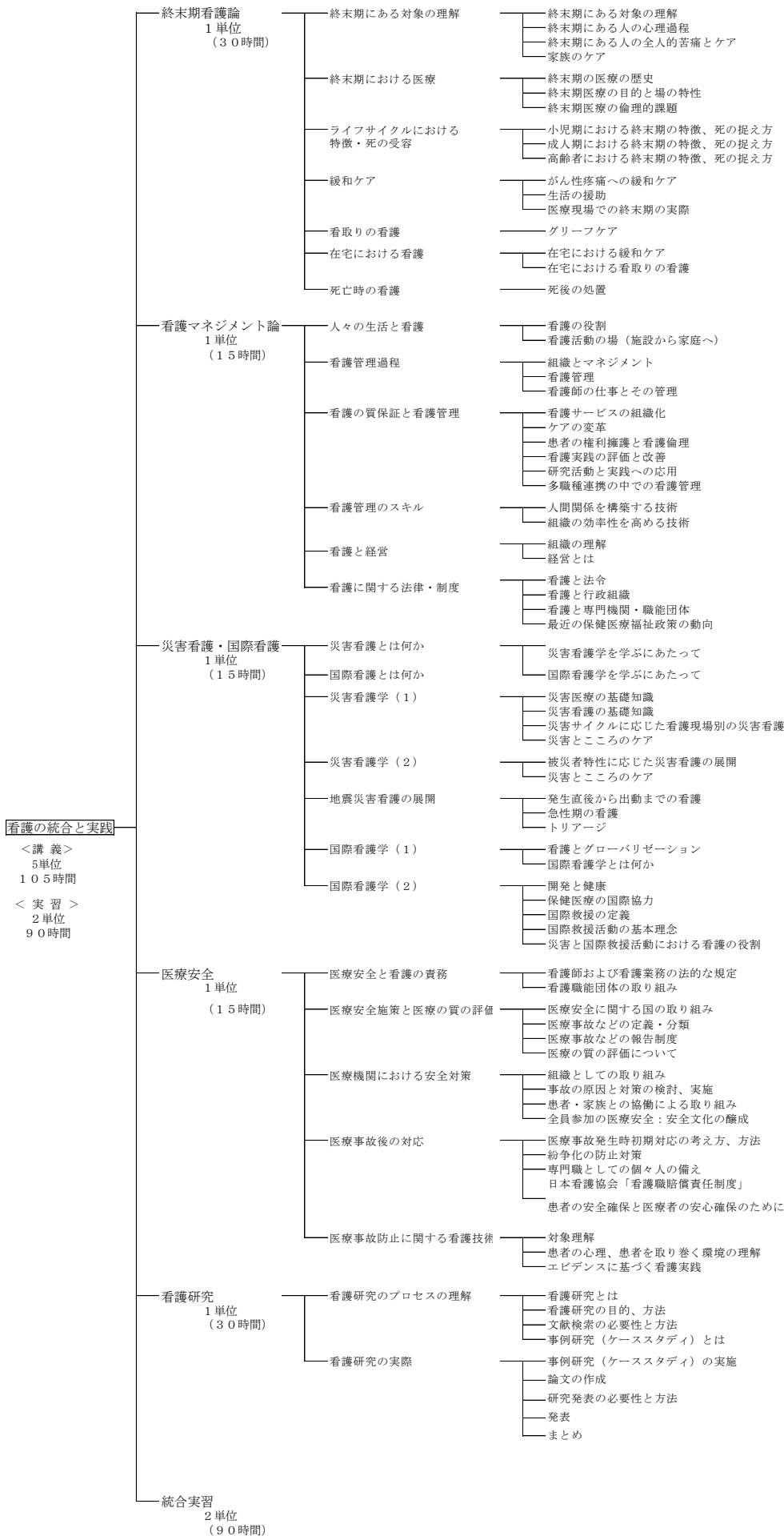


第一看護学科 看護の統合と実践

目 的 看護サービスを効率的、効果的に提供するために必要な看護マネジメントの機能や災害時における看護実践のための基礎的知識を学び、看護専門職としての役割について理解を深め、看護実践能力を養う。

- 目 標
- 1 看護をマネジメントする基礎的能力を養う。
 - 2 看護専門職としてのメンバーシップ・リーダーシップが発揮できるための能力を養う。
 - 3 医療安全の基礎的知識を学び、看護事故防止に関する方策について理解できる。
 - 4 災害看護の基礎的知識を学び、看護職の役割が理解できる。
 - 5 諸外国における保健・医療・福祉の課題が理解できる。
 - 6 専門職業人として患者の権利擁護や倫理的責任について考え、自己の課題が明確にできる。

看護の統合と実践 構成図



授業科目	終末期看護論	担当教員	専任教員☆ ①宮坂 恵子	単位数	1	時 期	3年次 9月～12月
			外部講師☆ ②高野 仁 ③住田 俊彦 ④小倉 亮 ⑤野崎 加世子	時間数	30		
目的と目標	<p>終末期における過程を一連のものとして理解し、患者とその家族のQOLを維持向上するための看護の基盤となる考え方を学ぶ。</p> <p>1 終末期にある対象の心理過程とその援助について理解できる。</p> <p>2 終末期にある対象の全人的苦痛への援助の方法がわかる。</p> <p>3 終末期にある対象の家族の心理を理解し、援助の必要性がわかる。</p> <p>4 終末期のケアの実際を知ることができる。</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担 当 教 員	
1 2 3	終末期にある対象の理解	(1) 終末期にある対象の特徴 (2) 終末期にある人の心理過程 (3) 終末期にある人の全人的苦痛とケア (4) 家族のケア			講義	専任教員 (宮坂恵子)	
4 5	終末期における医療	(1) 終末期の医療の歴史 (2) 終末期医療の目的と場の特性 (3) 終末期医療の倫理的課題			講義	外部講師 (高野 仁)	
6 7 8	ライフサイクルにおける特徴 ・死の受容	(1) 小児期における終末期の特徴、死の捉え方 (2) 成人期における終末期の特徴、死の捉え方 (3) 高齢者における終末期の特徴、死の捉え方			講義	専任教員 (宮坂恵子)	
9 10 11	緩和ケア	(1) がん性疼痛への緩和ケア (2) 生活の援助 (1) 医療現場での終末期看護の実際			講義	外部講師 (住田 俊彦) (小倉 亮)	
12 13	看取りの看護	1) グリーフケア			講義	専任教員 (宮坂恵子) 外部講師	
14	在宅における看護	(1) 在宅における緩和ケア (2) 在宅における看取りの看護			講義	(野崎 加世子)	
15	死亡時の看護 (1時間) 試験 (1時間)	(1) 死後の処置 (1) 筆記試験			講義 試験	専任教員 (宮坂恵子)	
評価方法	筆記試験 100点 (4～5回:20点、9～10回:20点、11回:10点、14回:10点、その他:40点)						
教科書 参考文献	系看 別巻 緩和ケア (医学書院)						
事前準備や 受講要件等	適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出する。						
☆担当教員の 実務経験	①③④⑤看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	看護マネジメント論	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時 期	3年次 9月～11月
			① 三島 有子 ② 田口 路代 ③ 武藤 英理 ④ 永田 陽子	時間数	15		
目的と目標	<p>看護の対象となる人々に効率的・効果的な看護サービスを提供するための「しくみ」や看護マネジメント機能について学び、看護専門職としての役割を理解する。</p> <p>1 看護専門職としての調整・リーダーシップ及びマネジメントができる能力を養う。</p> <p>2 看護の質を保証するための看護管理について理解できる。</p> <p>3 看護行政における看護専門職の役割・機能について理解を深める。</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	人々の生活と看護	(1) 看護の役割 (2) 看護活動の場 (施設から家庭へ)			講義	外部講師 (三島有子)	
2	看護管理過程	(1) 組織とマネジメント			講義	外部講師 (田口路代)	
3		(2) 看護管理					
4		(3) 看護師の仕事とその管理					
5	看護の質保証と看護管理	(1) 看護サービスの組織化 (2) ケアの変革 (3) 患者の権利擁護と看護倫理 (4) 看護実践の評価と改善 (5) 研究活動と実践への応用 (6) 多職種連携の中での看護管理			講義	外部講師 (武藤英理)	
6	看護管理のスキル	(1) 人間関係を構築する技術 (2) 組織の効率性を高める技術			講義	外部講師 (田口路代)	
	看護と経営	(1) 組織の理解 (2) 経営とは					
7	看護に関する法律・制度	(1) 看護と法令 (2) 看護と行政組織 (3) 看護と専門機関・職能団体 (4) 最近の保健医療福祉政策の動向			講義	外部講師 (永田陽子)	
8	試験 (1時間)	(1) 筆記試験			試験	外部講師 (三島有子)	
評価方法	<p>筆記試験 100点 (1回:15点、2・3・6回:40点、4・5回:30点、7回:15点)</p>						
教科書 参考文献	<p>ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 (MCメディカ出版) 資料配付</p> <p>新体系 看護学全書 看護の統合と実践①</p> <p>看護実践マネジメント/ 医療安全 (メヂカルフレンド社)</p>						
事前準備や 受講要件等	適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出する。						
☆担当教員 の実務経験	<p>①～③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。</p> <p>④看護師として行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。</p>						

授業科目	災害看護・国際看護	担当教員	専任教員☆ ① 宮坂 恵子	単位数	1	時 期	3年次 7月～12月
			外部講師☆ ② 長縄 保宏 ③ 藤垣 恵	時間数	15		
目的と目標	災害時における看護実践に関する基礎的な知識を学び、看護職の役割を理解する。 1 災害の概念、災害が人々の生命や生活に及ぼす影響が理解できる。 2 災害時における人々の生命や健康障害を支えるために必要な基礎知識を理解する。 3 災害各期における看護活動がわかる。 4 災害に対する看護の役割について理解する。 5 国際看護の現状や動向、看護活動を理解する。 6 世界の健康問題に対する看護の役割がわかる。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	災害看護学とは何か 国際看護学とは何か	(1) 災害看護学を学ぶにあたって (2) 国際看護学を学ぶにあたって			講義	専任教員 (宮坂恵子)	
2	災害看護学 (1)	(1) 災害医療の基礎知識 (2) 災害看護の基礎知識 (3) 災害サイクルに応じた看護現場別の 災害看護			講義		
3	災害看護学 (2)	(1) 被災者特性に応じた災害看護の展開 (2) 災害とこころのケア			講義	外部講師 (長縄保宏)	
4	地震災害看護の展開	(1) 発生直後から出動までの看護			講義 演習	専任教員 (宮坂恵子)	
5		(2) 急性期の看護 (3) トリアージ					
6	国際看護学 (1)	(1) 看護とグローバル化 (2) 国際看護学とはなにか			講義	外部講師 (藤垣 恵)	
7	国際看護学 (2)	(1) 開発と健康 (2) 保健医療の国際協力 (3) 国際救援の定義 (4) 国際救援活動の基本理念			講義		
8	試験 (1時間)	(5) 災害と国際救援活動における看護の役割 (1) 筆記試験			試験	専任教員 (宮坂恵子)	
評価方法	筆記試験 100点 (1～2回、4回：55点、3回：15点、6～7回：30点)						
教科書 参考文献	系看 専門分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ (医学書院)						配付資料
事前準備や 受講要件等	適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出する。						
☆担当教員 の実務経験	① 看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ② 看護師として災害支援活動経験を活かした授業展開をする。 ③ 助産師として海外派遣での活動経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	医療安全	担当教員	外部講師☆ ①五十川 知子 ②中嶋 都代	単位数	1	時期	3年次 4月～7月
				時間数	15		
目的と目標	<p>安全で質の高い看護を提供するために、看護・医療事故防止に関する知識・技術を習得し、実践できる能力を養う。</p> <p>1 医療安全施策の法的位置づけ、および看護職の法的規定について理解できる。</p> <p>2 医療機関における安全対策とその現状について理解できる。</p> <p>3 リスクマネジメント、倫理的判断能力を養い、安全を保障する確かな技術に支えられた看護が実践できる。</p>						
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	医療安全と看護の責務	(1) 看護師および看護業務の法的な規定 (2) 看護職能団体の取り組み			講義	外部講師 (五十川知子)	
	医療安全施策と医療の質の評価	(1) 医療安全に関する国の取り組み (2) 医療事故などの定義・分類 (3) 医療事故などの報告制度 (4) 医療の質の評価について					
2	医療機関における安全対策	(1) 組織としての取り組み (2) 事故の原因と対策の検討、実施 (3) 患者・家族との協働による取り組み (4) 全員参加の医療安全：安全文化の醸成			講義	外部講師 (中嶋都代)	
3	医療事故後の対応	(1) 医療事故発生時初期対応の考え方、方法 (2) 紛争化の防止対策 (3) 専門職として個々人の備え 日本看護協会「看護職賠償責任制度」 (4) 患者の安全確保と医療者の安心確保のために			講義	外部講師 (中嶋都代)	
4 5 6 7	医療事故防止に関する看護技術（8時間）	(1) 対象理解 (2) 患者の心理、患者を取り巻く環境の理解 (3) エビデンスに基づく看護実践			演習	外部講師 (五十川知子)	
8	筆記試験（1時間）						
評価方法	筆記試験 100点（1・4～7回：70点 2・3回：30点）						
教科書 参考文献	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全（MC メディカ出版） 配布資料						
事前学習や 受講要件等	適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出すること。						
☆担当教員 の実務経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	看護研究	担当教員	専任教員☆ 野口 健太	単位数	1	時期	3年次 7月～12月
				時間数	30		
目的と目標	<p>事例研究を通して、研究過程やその成果を理解し、効果的なケアの探求と看護知識の蓄積につなげるための基礎的知識が理解できる。</p> <p>1 看護における研究の意義と重要性がわかる。 2 研究における倫理的配慮とその重要性について説明できる。 3 文献検索の方法がわかる。 4 看護の実際を事例研究としてまとめ、研究の基礎がわかる。 5 自己の看護観を記述できる。</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2 3 4	看護研究のプロセスの理解	(1) 看護研究とは (2) 看護研究の目的、方法 ① 看護研究のデータ収集 ② 看護研究の進め方 ③ 看護研究の結果と整理 ④ 看護研究の考察 ⑤ 看護研究と文献収集 (3) 文献検索の必要性と方法 (4) 事例研究（ケーススタディ）とは			講義	専任教員 (野口健太)	
5 6 7 8 9 10 11 12	看護研究の実際	(1) 事例研究（ケーススタディ）の実施 (2) 論文の作成 (3) 研究発表の必要性と方法			演習		
13 14		(4) 発表			演習		
15	まとめ（1時間） 試験（1時間）	まとめ 筆記試験・レポート(自己の看護観)試験			講義 試験		
評価方法	事例研究 50点 筆記試験 20点 レポート(自己の看護観)30点						
教科書 参考文献	ナーシンググラフィカ 基礎看護学④ 看護研究 (MCメディカ出版)、配布資料						
事前準備や 受講要件等	適宜提示した課題について、期限を厳守して提出する。						
☆担当教員 の実務経験	看護師として研究活動に参加した経験を活かした授業展開をする。						